

## 事業事前評価表(開発調査事業)

作成日：平成14年12月6日 担当部・課：農林水産開発調査部農業開発調査課

1. 件名：モンゴル国ゾド対策に向けた地方牧畜業体制改善支援計画

### 2. 我が国が援助することの必要性・妥当性

#### (1) 現状及び問題点

モンゴル国は1999年、2000年と2年連続で寒害(ゾド)に襲われ、2年間で575万頭の家畜が凍死・餓死した。ゾドの被害は調査対象地域であるゴビステップ地域で特に深刻であり、全家畜死亡数の88.3%がこの地域で占められている。ゾドの被害が拡大した要因の一つとして過放牧が挙げられるが、この過放牧は家畜数の急増、給水施設の不足、家畜の流通体制の崩壊により牧民自身が家畜を市場まで運ぶために都市近郊での放牧が急増したことにより引き起こされている。一方で特に給水施設の不備により、46%の草原が放牧地として利用できない状態にある。

#### (2) 国家開発計画、地域開発計画、分野別計画などの計画と当該案件の整合性

モンゴル国は、「21世紀のためのモンゴル行動計画」のなかで持続的な農牧業生産の確立を謳っている。また、ゾドの対策として「モンゴル国政府事業計画」及び「旱魃・ゾドから家畜を守るための国家支援プログラム」のなかで過放牧の軽減を含む対策の必要性を謳っている。

#### (3) 他国機関の関連事業と当該計画の整合性

UNDP、USAID、GTZ、ADB等の援助機関が牧畜業関連の事業を行っている。牧草地の管理についてはUSAIDが、給水施設の修復・維持管理についてはその他ドナーが実施しているが、いずれも小規模であり、質・量ともに十分とは言えない。

(4) 我が国の当該国への基本的な援助方針との整合性

「農業・牧畜振興」は我が国の対モンゴル援助重点分野の一つであり、その中でも持続可能な牧畜業経営の確立に対する協力を謳っており、本調査は右方針に合致するものである。

3. 事業の目的

対象地域におけるゾド被害の主要な原因の一つである過放牧の軽減を目的として、放牧地の計画的利用体制(草地の牧養力に応じた適正な牧畜に向けた持続的な管理体制)の構築及び井戸の設置・修復・運営状況の改善計画を策定する。併せて先方政府関係者に対し調査及び計画立案に必要な知識・技術を移転する。

4. 事業の内容

(1) 対象

- a. 調査対象：モンゴル国ゴビ・ステップ地域
- b. 技術移転の対象：農業省職員、県職員、関連研究機関職員

(2) アウトプット

- a. 計画策定：「適正な放牧地の利用・管理計画」「井戸の維持管理計画」「井戸整備改善計画」を含む牧畜業体制改善計画を策定する。
- b. 技術移転：カウンターパートとのミーティング及び討論・セミナー開催・OJTを通して、カウンターパートは調査内容・手法を理解し、レポートの内容の見直し・修正・改良をする能力及びプロジェクトの実施・監理を行う能力を身につけることができる。

(3) インプット：以下の投入による調査及び技術移転の実施

a. コンサルタント（分野/人数）

| 分野       | 人数 |
|----------|----|
| 総括/農牧業開発 | 1  |

|               |   |
|---------------|---|
| 畜産/草地管理       | 1 |
| 遊牧社会経済/牧民組織   | 1 |
| 水文地質1/水質      | 1 |
| 水文地質2/さく井指導監督 | 1 |
| 物理探査          | 1 |
| 井戸修復/維持管理     | 1 |
| GIS           | 1 |

b. その他

- ・ 研修員受け入れ
- ・ 調査に必要な機材の購入

(4) 総事業費

調査に要す費用：約2億円

(5) 調査スケジュール

2003年2月～2005年2月

(6) 実施体制

- a. 協力相手国の実施機関名：食糧・農牧省
- b. 協力相手国実施機関の責任者：食糧・農牧省次官

5. 成果の目標

(1) 提案計画の活用目標

- ・ モンゴル政府(県政府を含む)、ドナーによって報告書で提案した各種計画が事業化される。

(2) 活用による達成目標

- 過放牧が解消され、持続的な牧畜業が営まれる。
- ゾドによる家畜の被害が減少する。

## 6. 外部要因リスク

- モンゴル国政府の政策の変更
- 政府の予算状況の大幅な悪化
- 調査に参加したC/Pが他の組織に流出しない

## 7. 今後の評価計画

### (1) 事業評価に用いる指標

#### a. 提案計画の活用目標の指標

本件調査結果がまたは、モンゴル国政府によって調査結果の活用、事業化に対して、予算手当が行われたか。援助案件としてドナーにより実施されたか。

#### b. 活用による達成目標の指標

- 牧養力に応じた適正な家畜数が飼養される。
- ゾドにより凍死、餓死する家畜の数が減少する。

### (2) 評価する方法及びタイミング

- 提案計画の活用目標：フォローアップ調査 (2010年)
- 活用による達成目標：フォローアップ調査 (2015年)